2014・2015年度教研テーマ
共に祈り 共に生きよう

キリスト教学校教育 7

http://www.k-doumei.or.jp/　E-mail info@k-doumei.or.jp

キリスト教学校教育同盟
〒169－8509 東京都新宿区西早稲田2－3－18－712
電　話　03（3203）0361
ＦＡＸ　03（3203）0362
理事長　佐藤東洋士
編集人　田村　浩一
頒価200円（加盟法人の購読料は会費に含まれています）
（毎月1回15日発行）

第102回総会神戸女学院で開催される

教育同盟を一般社団法人へ

教育同盟第102回総会が6月6日（金）・7日（土）、兵庫県西宮市の神戸女学院で開催され、全国の加盟校より85法人216人（開会時点）の代表者が参加した。

両日とも講堂を会場に行われ、第一日は中野敬一氏（神戸女学院大学チャプレン）の総合司会のもと、開会礼拝（説教・飯謙神戸女学院大学学長）から始められた。礼拝の後、代表者出席数確認・総会書記指名が行われ、佐藤東洋士理事長が開会の挨拶を、森孝一氏（神戸女学院理事長・院長）が会場校挨拶をそれぞれ行った。続いて来賓の韓国基督教学校聯盟理事長・白永哲氏が挨拶し（通訳は安科善同事務總長、会場から歓迎を受けた。

協議に入り、午前中は まず地区推薦理事の承認、諸報告事項を行い、記念撮影終了直後に、地区推薦理事承認を受けて臨時理事会が神戸女学院理事室で開催され、小暮修也氏（明治学院学院長）伊藤悟氏（青山学院大学宗教部長）の常任理事就任および担当（小暮氏―教研、伊藤氏―国際交流）が選定された。その後昼食・懇談会、校舎見学と続き、ヴォーリズ建築の魅力に感銘を受けた。

午後も議事が続き、「一般社団法人キリスト教学校教育同盟の移行設立に関する定款（案）ならびに今後の手順承認の件」としてまず趣旨説明を佐藤理事長が、続いて定款（案）・手続説明を片岡恵子顧問弁護士（京橋法律事務所）がそれぞれ行い、承認された。それぞれ行われた。これに伴い、続いての「一般社団法人キリスト教学校教育同盟の最初の理事・監事の選任及び理事長・常任理事・総務理事・会計理事等の選定の報告」についてもこれまでの人事を引き継ぐことで承認された。

議事終了後、特別プログラムとしてシンポジウム「教育同盟の使命実現に、大規模校に何ができるか―『コングリゲーション』を問い直す」を開催。司会の森孝一氏がまず趣旨説明を行い、続いて小坂賢一郎氏（梅花学園理事長）、棟方信彦氏（松山東雲女子大学・短期大学学長）、村田晃嗣氏（同志社大学学長）がそれぞれ発題した。その後質疑応答が行われ、第一日を終了した。

開会挨拶をする佐藤理事長

第二日のプログラムも礼拝（説教・大門光歩神戸女学院中高部チャプレン）から開始し、その後佐藤理事長のもと、2014年度の各事業計画案や予算案が審議され、それぞれ承認された。議事は第二日の昼をもって盛会の内に終了した。総会記録等は2～3面を参照されたい。

2015年度の総会は6月12日（金）・13日（土）に聖隷学園（静岡県浜松市北区）において開催予定で、理事長の長谷川了氏が挨拶した。

総会に先立ち、5月15日に総会報告書委員会が関西学院大学大阪梅田キャンパス会議室で、6月5日に2014年度第2回常任理事会が神戸女学院理事室で、第1回維持財団評議員会および理事会が神戸女学院ジュリア・ダッドレー記念館会議室で開催された。

総会開会礼拝説教

誰の手の内にあるか

ローマの信徒への手紙 8・24-25

飯　謙

「希望」（エルピス）というギリシア語をまとまったテクストで最初に用いたのは、前8世紀の作家ヘシオドスだったと思われます。このようなエピソードです。パンドラという最初の人類が命令に反して瓶の蓋を開けたため、世界に厄災が飛び出した。あわてて蓋を閉じたところ、希望だけがその瓶に残った、と。古代ギリシアで「希望」は厄災の一つに数えられていたのです。彼らの中に「希望は空しいもの」との理解があったため、と説明する西洋古典学の先生がおられます。われわれ人間の懐く希望はその程度のもので、どこかくたびれたイメージが伴っているといえるかもしれません。

しかしパウロは「見えるものに対する希望は希望ではない」（ローマの信徒への手紙8・24）と述べ、異なる性格の「希望」を提示します。ここで使われる「見る」（ブレポー）の用例を調べると、目的語に否定的なもの、不確かで不安なものをとることが多くあります。この箇所の直前にある「わたしが罪の法則のとりこになっていることが見える」（ローマ7・23）やイエスの「兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、自分の目の中の丸太に気づかない」（マタイによる福音書7・3）はその典型です。パウロは「ブレポーではない希望」（ローマ8・25）と語り、身勝手なわたしたちの手の内にある希望を対照させます。

西アフリカ・シエラレオーネの精神的な指導者であるキリスト者ソロモン・プラットが次のような詩をしたためています。「バスケットボール。わたしの手の内にあれば19ドル。マイケル・ジョーダンの手の内にあれば3300万ドルになる。誰の手の内にあるかによるのだ。……二匹の魚と五つのパン。わたしの手の内にあれば二つのフィッシュサンド。イエスの手の内にあれば数千人を満たすことができる。誰の手の内にあるかによるのだ。……だから、あなたの思い、心配、恐れ、希望を神の手に委ねよう」。

いまから総会が始まります。新たな体制に向けて、大切な決断をせねばなりません。目に見える希望のためではなく、わたしたちが誰の手の内にあるかを確認する、真実な希望に目を見開かれる時となりますよう祈りを合わせたく存じます。

〈神戸女学院大学学長〉

※題名は総会時とは変更しています。

佐藤東洋士理事長挨拶

本日はお忙しい中、全国よりご参集いただき、こうしてキリスト教学校教育同盟第102回総会を開かせていただけますことを感謝申し上げます。

先ず初めに、本総会のために会場をご提供くださいました神戸女学院理事長・院長の森先生、大学学長の飯先生はじめ、開催にあたって献身的にご奉仕くださっています教職員の皆様に心より感謝申し上げます。折しも先月、国の文化審議会より、神戸女学院の校舎が「重要文化財」に指定するに相応しい建築物であるとの答申がなされましたことは、皆様もご存知のことと思います。そのようなW・M・ヴォーリズ先生の名建築に触れさせていただく機会に恵まれましたことに、感謝いたします。森先生曰く、「ヴォーリズ先生が目指されたのは、『美しい心を育むための品格ある建築』とのことです。私たちはその校舎の中で、美しい心をもって品格ある総会を開催させていただければと願っています。

また今回も、韓国より韓国基督教学校聯盟理事長の白永哲先生、事務總長の安科善先生のご臨席いただきましたことは大変嬉しく、心から歓迎申し上げます。

さて今回は、全国85法人から270名の皆様にお集まりいただきましたことは、本総会では、2013年度を振り返りますと共に2014年度計画をご協議いただきますが、同盟はいよいよ維持財団と組織を一本化し、新たな一歩を踏み出そうとしています。また、かねてより懸案であった研究・研修事業を再編し、新たなる研修事業を立ち上げるべくその準備を進めています。このような重要な時期にあって、私たちは忌憚のない意見を交わしながらも心を一致させ、これからのキリスト教学校の在り方、同盟の在り方を共に尋ねたいと願っています。

そして、出席されたお一人お一人にとって、どのような時代にあっても同盟は本来の使命を決して見失うことなく、主の栄光を更に輝かせながら歩み続ける群れであることが確信できる機会となりましたら幸いです。

最後に、この総会が皆さまにとって実り多いものとなることを願い、また、神がそれぞれの学校に集う児童、生徒、学生、教職員お一人お一人を守り導き続けてくださいますことを祈りつつ、開会の挨拶とさせていただきます。

加盟校動静

尚絅学院

5月31日付けで加藤正名氏が理事長を退任、6月1日付けで佐々木公明氏が後任に就任（学院長兼任）。

啓明学園

6月15日付けで平野吉三氏が理事長・学園長を退任、16日付けで内藤洋介氏が後任に就任。

（訂正）6月号座談会出席者名中、大川博氏は大川洋氏の誤りでした。お詫びして訂正します。

キリスト教学校教育懇談会 第12回公開講演会

日時＝11月24日（祝）14時30分～17時
場所＝青山学院高等部
テーマ＝「キリスト教学校のめざすもの―キリスト教教育は道徳教育とどこが違うのか」
講師＝大川　洋（国際基督教大学准教授）
主催　キリスト教学校教育懇談会
日本カトリック学校連合会
キリスト教学校教育同盟

＜7月号目次＞
▶第102回総会特集　〈2～4面〉
▶東北・北海道地区
第1回新任教師研修会　〈4面〉
▶公募　〈〃〉

＜総会・研究集会等行事予定＞

7／26～28　第58回事務職員夏期学校（東山荘）
29　第4回西日本小学校教職員協議会（北陸学院小学校）
8／11～13　第1回中堅教員リトリート（節目研修）（同志社びわこリトリートセンター）
28、29　第4回中堅事務職員研修会（関西学院大学）
29、30　第1回大学新任教員研修会（桜美林大学多摩アカデミーヒルズ）
9／6　第1回教研中央委員会（玉川聖学院）
9、10　第58回大学部会研究集会（敬和学園大学）
11、12　第56回中高研究集会（東北学院中高）
10／2、3　第6回キリスト教活動担当事務職員研修会（北星学園女子中高）
11／14、15　第56回学校代表者協議会（立教女学院）
24　キリスト教学校教育懇談会第13回講演会（青山学院高等部）
24、25　第9回全国聖書科研究集会（青山学院）
12／26　第2回教研中央委員会（会場未定）
2015年
6／12、13　第103回総会（聖隷学園）

第102回総会記録

会場　学校法人神戸女学院
日時　2014年6月6日（金）・7日（土）
出席　85学校法人から216名（開会時点）

（第一日）6月6日（金）

Ⅰ. 開会礼拝
（10時10分～10時30分）
場所＝神戸女学院講堂
奏楽＝片桐聖子（神戸女学院オルガニスト）
説教＝「霊自らが」飯謙（神戸女学院大学学長）

Ⅱ. 組織
（10時35分～11時）
議長　佐藤東洋士（キリスト教学校教育同盟理事長）

◇代表者出席者数確認
事務局により10時30分現在の出席者数が確認された結果、出席予定者数270名、出席216名、委任状252名で、総会成立の要件を充たしていることが報告され、磯員瞰成事務局主事により開会が宣言された。

◇総会書記指名・選出
学校法人神戸女学院・東松道雄（総務部長）、住野秀樹（経理部長）が指名され、承認した。

◇開会挨拶
佐藤理事長より開会の挨拶が述べられた。

◇会場校挨拶
学校法人神戸女学院森孝一理事長・院長より挨拶が述べられ、学院各校代表者の紹介がなされた。

◇来賓挨拶
韓国基督教学校聯盟白永哲理事長より挨拶が述べられた（通訳は安科善韓国基督教学校聯盟事務総長）。

Ⅲ. 議事
（11時～12時）

1. 地区推薦理事等承認の件
佐藤理事長より、嶋田順好（青山学院）、大西晴樹（明治学院）の両理事が3月末で辞任のため、規約により、関東地区協議会より伊藤悟（青山学院）、小暮修也（明治学院）が理事候補として推薦された旨を述べ、承認された。

2. 加盟校動静報告
事務局より、総会資料に基づき加盟校動静および人事異動の報告があった。また総会出席の新学校代表者が紹介された。

3. 2013年度理事会報告
議長より、総会資料の記録文書によって理事会、および常任理事会報告があり、承認した。

4. 報告書委員会付託事項報告
越川弘英報告書委員会委員長（同志社）より、資料を基に5月15日に開催された委員会の報告がなされた。

2013年度事業報告、教育研究委員会報告、広報委員会報告が事業計画通りに確実に実施されていることを確認した旨の報告があり、訂正事項、委員会からの要望事項（報告書に掲載）を含め報告を承認した。

※報告書委員（関西地区森孝一代表理事の指名による5名）
（委員長）越川弘英（同志社）、中野敬一（神戸女学院）、青木直人（梅花学園）、小見のぞみ（関西学院）、夏目裕（関西学院）

5. 各地区報告
議長より、各地区協議会報告書に基づき報告され、承認された。

6. 2013年度決算報告
白石隼男会計担当理事（国際基督教大学）より、総会資料に基づき説明、公開（尚絅学院）が選任されたこと、理事については前述の伊藤悟、小暮修也が選任されたことが報告された。さらに事業報告として後継者養成パイロット大学4校に寄付事業を行ったことが報告された。

7. 2013年度監査報告
大塩武常任監事（フェリス女学院）より、総会資料に基づき会計監査報告があり、承認した。

8. 維持財団報告
佐藤理事長より「決算報告書」（一般財団法人キリスト教学校教育同盟維持財団2013報告書）に基づき決算報告があり、承認された。
また、総会に先立って開催された評議員会において、評議員につき、標富男（聖学院）が3月末にそれぞれ辞任したことに伴い、山口博（聖学院）、佐々木公明（尚絅学院）が選任されたこと、理事については前述の伊藤悟、小暮修也が選任されたことが報告された。さらに事業報告として後継者養成パイロット大学4校に寄付事業を行ったことが報告された。

（連絡事項）
①第1回中堅教員リトリート（節目研修）について　水口洋（玉川聖学院、同盟教研中高部会委員長）
②関西地区第53回夏期合宿カウンセリング研修会について　長谷川洋一（大阪女学院、同盟関西地区カウンセリング研究会長）

10. 一般社団法人キリスト教学校教育同盟の移行設立に関する定款（案）ならびに今後の手順承認の件
趣旨説明＝佐藤理事長
定款（案）・手続説明＝片岡理恵子顧問弁護士（京橋法律事務所）
それぞれの説明の後、承認された。

10－2. 一般社団法人キリスト教学校教育同盟の最初の理事・監事の選任及び理事長・常任理事・総務理事・会計理事等の選定の報告の件
佐藤理事長より、一般社団法人として公証人より認証を受けて登記する際に最初の理事・監事等の提出が必要であるため、前回理事会で現体制を横滑りさせて了解を得ているが、本会での承認を求めたい旨を述べ、承認された。

Ⅵ. 特別プログラム　シンポジウム
（15時～17時）
「教育同盟の使命実現に、大規模校に何ができるか―『コングリゲーショナル・チャーチ・アライアンス（仮）』の目線から―」
発題　小坂賢一郎（梅花学園理事長）、棟方信彦（松山東雲女子大学・短期大学学長）、村田晃嗣（同志社大学学長）
司会・趣旨説明　森孝一（神戸女学院理事長・院長）

（第二日）6月7日（土）

Ⅶ. 礼拝
（10時～10時30分）
場所＝神戸女学院講堂
奏楽＝片桐聖子（神戸女学院オルガニスト）
説教＝「新たにされた者」大門光歩（神戸女学院中高部チャプレン）

Ⅷ. 議事
（10時35分～12時）

11. 2014年度事業計画
総会資料に基づき、以下の通り計画案の説明が磯員事務局主事より行われた。
①第56回学校代表者協議会
②第58回事務職員夏期学校
③新規事業
・第1回中堅教員リトリート（節目研修）
・第1回大学新任教員研修会
・第1回新任教師研修会（東北・北海道地区）
④キリスト教学校教育懇談会第12回公開講演会・シンポジウム
④出版・印刷物関係
⑤キリスト教学校教職員就職支援
以上、2014年度事業計画について承認した。

12. 2014年度教育研究委員会事業計画案
総会資料を基に、計画案の説明が行われた。
大学部会―小林俊哉（新島学園）中高部会、小学部会―山本香織（東洋英和女学院）、聖書科部会―山本真司（同志社）、事務職員部会―立花慎一（青山学院）、教職員後継者養成部会―伊藤悟（青山学院）山本真司聖書科部会委員長より、聖書科の教科書として編纂中の『キリスト教入門』（創元社）の新版は2015年4月より使用できるように準備中であるとの説明がなされた。
以上、2014年度教育研究委員会事業計画案について承認した。

13. 2014年度広報委員会事業計画案
坂田雅雄広報担当理事より、総会資料に基づき、計画案の説明を行い、これを承認した。

14. 2014年度予算案
白石隼男会計担当理事より、総会資料に基づき、予算案の説明を行い、これを承認した。

15. 地区提出議題
事務局より、事前に提出されている議題がないことが報告された。

16. 教育同盟加盟申請の件
磯員主事より、石山学園（若松第一高等学校）につき、総会3ヶ月前までに加盟条件を整えて、加盟申請書類を事務局に提出することになっていたが、若干なお時間を要することが報告された。

17. 日本キリスト教会館（事務局所在）耐震工事の件
磯員主事より、キリス

（3面につづく）

森孝一神戸女学院理事長・院長挨拶

本日は第102回総会のために、神戸女学院においでいただき、誠にありがとうございます。

神戸女学院はいまから139年前の1875年に、現在の神戸異人館街の一角、山本通に創設されました。設立者は米国会衆派教会の海外宣教団体（アメリカン・ボード）から派遣された、二人の婦人宣教師、イライザ・タルカットとジュリア・ダッドレーです。

その後、神戸女学院は中等教育、高等教育機関として発展をし、学生数の増加によってキャンパスが手狭になったために、創立58年後の1933年に、この岡田山キャンパスに全面移転いたしました。今年は移転81周年を迎えています。

現在、大学は3学部（文学部、音楽学部、人間科学部）・5学科（英文学科／総合文化学科／音楽学科／心理・行動科学科、環境・バイオサイエンス学科）で、学生数は約2600名。中高部は840名です。大学、中高部ともに、毎日礼拝を守っています。中高部は毎朝、この講堂に全校生徒が一堂に会して礼拝を守ります。チャプレンは大学3名、中高部2名です。

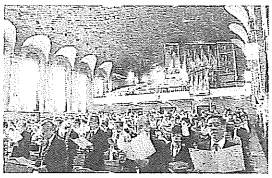
81年前、新キャンパスのグランド・デザインを担当したのは、信徒伝道者で建築家のウィリアム・メレル・ヴォーリズでした。彼の妻、一柳満喜子は神戸女学院音楽部ピアノ科の第一期生です。

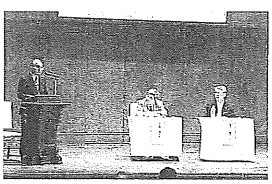
この総会に合わせるように去る5月16日、現存するヴォーリズ設計の12棟のすべてを、国の重要文化財に指定するという答申が審議会から出されたという報告をいただきました。名称は「重要文化財　神戸女学院」です。

お手元のパンフレット『神戸女学院のヴォーリズ建築』には、キャンパス・マップと指定される12棟の写真が掲載されていますので、ご覧ください。全プログラム終了後、ガイド付きのキャンパス・ツアーを計画しています。

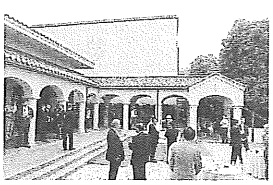
何分、手狭なキャンパスであり、スタッフの数も限られていますので、いろいろとご不便をおかけすることと思います。しかし、神戸女学院のスタッフ一同、心を込めて皆さまをお迎えさせていただきます。

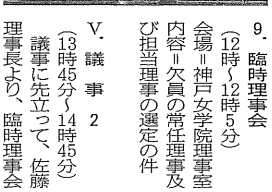
→開会礼拝



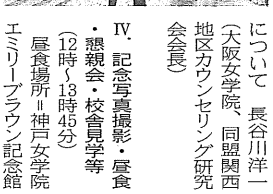


白理事長（韓国）挨拶
通訳・安事務總長

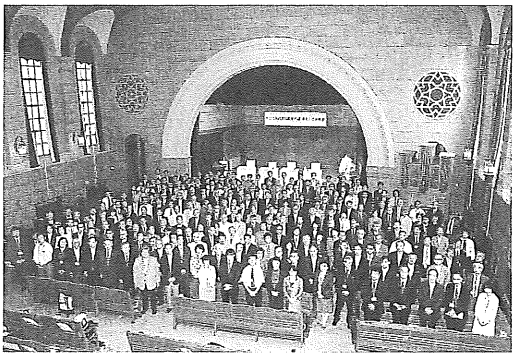




→昼食・懇親会



次回会場聖隷学園
長谷川理事長挨拶



（2面よりつづく）

ト教会館の耐震について重大な問題がありとの指摘を受け、建て替えあるいは耐震補強につき結論に至っていないこと、その間危険回避のため事務所を一時移動する団体も増え、同盟事務局も2年を目途に一時避難を検討し、可能性のある場所の打診を行ったところ、2件のオファーがあるとの報告がなされた。この件については常任理事会付託事項することとし、了承された。

18．総会記録承認の件

総会議事録に関して、常任理事会で精査し、総会記録として承認することを了承した。

IX．閉　会

（12時～12時20分）

◇次回会場校挨拶

次回総会（第103回）は2015年6月12日（金）・13日（土）、会場校は聖隷学園（静岡県浜松市）との報告があり、長谷川了理事長より挨拶があった。

◇感謝のことば

同盟を代表し、星宮望常任理事より、議場を代表して神戸女学院に対し、感謝のことばが述べられた。

◇閉会祈祷

酒井玲子理事の閉会祈祷をもって、2014年度第102回総会を閉会した。

特別プログラム　シンポジウム

教育同盟の使命実現に、大規模校に何ができるか

「コングリゲーショナル・チャーチ・アライアンス」（仮）の目線から

趣旨説明

森　孝一

今回の総会は、再編による教育同盟の新たな出発のための総会となりました。それとともに、教育同盟の新たな使命（ミッション）が問われています。

教育同盟の中小の加盟校は存続の危機に直面しています。その原因は、就学時人口の減少と加盟校におけるクリスチャン教職員の減少です。

第2次ベビーブーマーのピークの年（1992年）の18歳人口は205万人でしたが徐々に減少して、2009年には120万人となりました。2017年まではこのまま推移しますが、2018年から再び減少し始め、2031年には現在よりも28%少ない87万人になると予測されています。更に減少して、現在の半分の60万人にまで減少するという説もあります。大学における「2018年問題」は、中学ではその6年前、すなわち、2012年からすでに始まっています。

一方で、1985年には450校程度であった大学数が、現在783大学にまで増加しました。新設だけでなく、既存の大規模大学は学部・学科の増設により入学定員を増加させました。

その結果、これまで神戸女学院大学に入学してくれていた受験生が大規模大学に進学するようになっています。

18歳人口の減少と入学定員の増加によって、2031年には「大学全入時代」が始まります。すなわち、現在大学には来ていない層が入学してくるようになり、大学の専門学校化が始まります。その結果、日本の大学は二極化すると言われています。教育同盟の加盟校間においても、二極化が今後ますます進むことが予想されます。教育同盟の新たな使命（ミッション）は、厳しい状況の中で格闘している「中小規模の加盟校をサポートする」ことに他なりません。そのための具体的な方策を求めていくことが必要です。

シンポジウムの副題として「コングリゲーショナル・チャーチ・アライアンスの目線から」を掲げ、パネリストとして、同志社、梅花学園、松山東雲女子大学の創立者である成瀬仁蔵の協力を得て、1898（明治11）年に大阪の地で、梅花女学校を開設した。

この、歴史と伝統ある梅花学園が、近年、急速に学生生徒園児を減らし、経営状況は悪化の一途をたどった。特に、大学は18歳人口の減少率を上回る減少となり、数年前には大幅な入学定員割れに陥ったのである。

理由は、18歳人口の減少の他に大規模ブランド大学の学部増・定員増等があげられるが、一番大きな理由は、歴史と伝統に甘んじ、社会の要請に対応したスピード改革ができなかったことにある。

したがってここ数年、梅花学園は一刻も早く学生生徒園児数を収容定員数まで回復させ、財政の健全化を進めるため、重要なことはすべて常務理事会の責任において、提案し即決し実行することとした。おかげさまで今日、梅花中学・高等学校の健闘もあり、学園全体の学生生徒園児数は増加に転じ、最悪の事態はようやく脱した感がある。

とはいえ今後、市場原理による弱小学園の淘汰は確実に進むことは間違いないだけに、適切な現状分析に基づき、改革のスピードをさらに上げなければ、財的・人的資源に乏しい梅花学園の将来はないと考える。

現在、梅花学園の柱とも言える大学では、キリスト教主義、女子大学、小規模大学、歴史と伝統、北摂地域の地の利の五つを基盤に「特色ある大学」作りを進めている。また、人件費・諸経費の「費用対効果」を高めるため、教職員の少数精鋭化と大胆な事業の見直しを行っている。そして、学内校との連携や産学連携などの各種連携強化も重要な課題である。

今回のシンポジウムでは、「小規模学園の危機と対策」をテーマに、以上のように「常務理事会主導の改革」「特色ある大学作り」、そして「費用対効果の向上」の3点を中心に発案させていただいた。皆様の忌憚のないご意見をお聞かせ願いたいと考えている。なお、会衆派教会に連なる本学園としては、学園関係者自身の手のみによって自律的に改革されなければならないことはもちろんであるが、連携の一貫として、本日のテーマであるコングリゲーショナル・チャーチ・アライアンスが大いに社会に発信され、本学のブランド力の向上に資することも期待している。

出　席（発言順・敬称略）

小坂賢一郎（梅花学園理事長）

棟方　信彦（松山東雲女子大学・短期大学学長）

村田　晃嗣（同志社大学学長）

司　会

森　孝一（神戸女学院理事長・院長）

まず中小規模校が置かれている厳しい状況について語っていただき、つぎにそれぞれの学校が課題解決のために努力している事例と、アライアンス内での相互協力の可能性、とくに同志社大学への要望について語っていただきます。

村田先生からは、大規模校として同志社大学が直面している課題についてお話しいただくとともに、他の3校からの要望についてのご見解をお話しいただければと願っています。

小規模学園の危機と対策

小坂賢一郎

梅花学園は大阪府の泉北市に大学・大学院、豊中市に高等学校・中学校・幼稚園を設置している、学生生徒園児数約2800名の小さな女子学園（幼稚園のみ男女共学）である。創立者である澤山保羅は、明治維新間もない頃、同志社の新島襄らとともに、日本におけるキリスト教伝道の先駆者として布教活動を行うと共に、後の日本女子大学の創立者である成瀬仁蔵の協力を得て、1898（明治11）年に大阪の地で、梅花女学校を開設した。

この、歴史と伝統ある梅花学園が、近年、急速に学生生徒園児を減らし、経営状況は悪化の一途をたどった。特に、大学は18歳人口の減少率を上回る減少となり、数年前には大幅な入学定員割れに陥ったのである。

理由は、18歳人口の減少の他に大規模ブランド大学の学部増・定員増等があげられるが、一番大きな理由は、歴史と伝統に甘んじ、社会の要請に対応したスピード改革ができなかったことにある。

したがってここ数年、梅花学園は一刻も早く学生生徒園児数を収容定員数まで回復させ、財政の健全化を進めるため、重要なことはすべて常務理事会の責任において、提案し即決し実行することとした。おかげさまで今日、梅花中学・高等学校の健闘もあり、学園全体の学生生徒園児数は増加に転じ、最悪の事態はようやく脱した感がある。

とはいえ今後、市場原理による弱小学園の淘汰は確実に進むことは間違いないだけに、適切な現状分析に基づき、改革のスピードをさらに上げなければ、財的・人的資源に乏しい梅花学園の将来はないと考える。

現在、梅花学園の柱とも言える大学では、キリスト教主義、女子大学、小規模大学、歴史と伝統、北摂地域の地の利の五つを基盤に「特色ある大学」作りを進めている。また、人件費・諸経費の「費用対効果」を高めるため、教職員の少数精鋭化と大胆な事業の見直しを行っている。そして、学内校との連携や産学連携などの各種連携強化も重要な課題である。

今回のシンポジウムでは、「小規模学園の危機と対策」をテーマに、以上のように「常務理事会主導の改革」「特色ある大学作り」、そして「費用対効果の向上」の3点を中心に発案させていただいた。皆様の忌憚のないご意見をお聞かせ願いたいと考えている。なお、会衆派教会に連なる本学園としては、学園関係者自身の手のみによって自律的に改革されなければならないことはもちろんであるが、連携の一貫として、本日のテーマであるコングリゲーショナル・チャーチ・アライアンスが大いに社会に発信され、本学のブランド力の向上に資することも期待している。

コングリゲーショナル・チャーチ・アライアンスへの期待

棟方信彦

本学園は中・高、短大、4大に付属幼稚園からなる、四国唯一の女性の総合学園である。定員充足と財政上に課題を抱えている。

〈本学園を取り巻く競争環境〉

18歳人口の減少問題で重要なことは、それがもたらした地方の競争環境の変化である。一つはシェア競争の激化である。近隣県や大都市圏の大規模校が財力を活かし、本県に募集活動を展開している。この結果受験生の流出を招き、更に減少する地元志向の学生を巡り、地元大学間でも二極化が定着。これに加えて県内周辺地域では、経済的事情などで専門学校志向が強く、県内の大学進学率を押し下げている。二つ目は、地域内競争の質の変化である。愛媛県下には、競争相手として大学短大合計で7校ある

（4面につづく）

第2日目礼拝説教

新しくされた者

エフェソの信徒への手紙 4・17-24

大門光歩

神戸女学院のキャンパス移転を報じた記事には、「古くして常に新しい神戸女学院」という小見出しがつけられています。私は、この「古くして常に新しい」という教育のあり様を求めてゆく姿勢が、今日のキリスト教主義学校に求められているのだと感じています。

激動する時代の中で教育のあり方が問われているわけですが、そのような時代の中でこそ、変わることのないもの、伝統の上に立ちながら常に新しい教育のあり方というものを実践し、それによって社会を導いてゆかなければならないと思うのです。

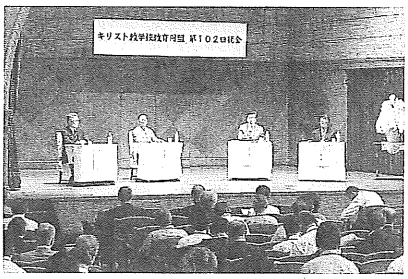
神戸女学院の創立者タルカット先生は当時の学生に対して「背筋を伸ばしなさい」と厳しく教えられました。この教えは当時の社会においては大きな挑戦でありました。封建的な社会において女性は伏し目がちにしていることが美徳であるとされていましたから、背筋を伸ばして歩く女学院生の姿は人々に驚きや戸惑い、そして反発を抱かせるものであったようです。その一方でそれは新しい人間の姿を表すものでもありました。「キリストについて聞き、キリストに結ばれて教えられ、真理がイエスの内にあるとおりに学んだ者が、心の底から新たにされて、神にかたどって造られた新しい人を身に着けてゆく」（エフェソの信徒への手紙4章）―背筋を伸ばして生きる姿はその象徴でした。神戸女学院に限らず、キリスト教主義学校の卒業生たちは、その生き方を通して地域の人々に聖書に基づいた新しい人間の姿を示してきたはずです。

それは今この時代においても同じなのだと私は確信しています。その根拠は、私たちの教育の礎が聖書にあるからです。聖書を礎とする教育は、今この時代においても必要とされる新しい人の姿を、この世の光として示しているのだと私は信じています。

もう一つの根拠は、今、この時代に私たちが出会っている学生の姿です。創立のはじめに驚きをもって受け止められたキリスト教主義学校が目指す新しい人間の姿は先輩から後輩へという形で脈々と受け継がれてきたはずです。その連鎖を遡ってゆけば、必ず、創立時の願いやキリストの生涯、聖書が語る人間の姿というものに繋がってゆくはずです。ここに「古くして常に新しい」教育の営みがあるのだと思います。

キリスト教主義教育の使命を担っている者として、それぞれの持ち場において目撃している喜びの光景について語り合うことのできる、そのような交わりを大切にしてゆきたいと願っています。

〈神戸女学院中高部チャプレン〉



（3面よりつづく）

が、内4校が天々に系列化と連携のネットワークを有し、一部はいえチェーン店化している。この面でも本学園のような独立店の戦いに困難さを増している。チェーン化では、情報やノウハウの共有、研究・教育力や体質の改善が目指されていることから、さらに格差を生む要因となっている。

〈競争対抗に期待されるアライアンス〉

今日の高等教育機関は、教学と運営の両面で社会から改革の要求に直面している。全ての大学にとって改革は待ったなしといわれる所以である。この改革に追いつくだけでも簡単ではない。地方の中小大学の場合は、厳しい競争環境に置かれ、単独で生き残りを実現することも困難な状況にある。とりわけ大学間の競争が、連携などのグループ力の次元で展開されることが自立できている今日、単独主義は余程の強みを備えない限り危険この上ない。そこでキリスト教教育の既存の学園を存続させ、キリスト教精神に基づく教育の灯を守るためには、新たな連携の仕組みを考える必要がある。その際、課題となるのはネットワーク全体での最適化に向けての各学園のスリム化や機能分化の必要性である。構成メンバーが資産や強みを生かしながらの、主体性の保持と互恵的な姿勢が求められる。連携はあくまでもキリスト教教育に、新たな価値を生み出すものであるべきであり、連携自体が目的化することは戒めたい。連携の形は、教育理念や入試広報などの緩やかなコミュニケーションの共同から、チェーンストア的共同事業へ、更には強固な系列化へと、様々な可能性が考えられる。

意味するのかについて、これまで必ずしも十分な議論はなかった。そこで、昨年初めて、法人のレベルで良心教育に関するパネル・ディスカッションを実施した。また、本年度は、私自身も講師に加わり、「良心学」という複合領域科目を立ち上げた。初期同志社の卒業生で、倫理学者として著名な大西祝の評論集が岩波文庫から刊行されたのも、良い機会である（大西の良心論は難解だが、一読に値する）。こうした地道な努力の集積がさらに必要であろう。実際、若手の職員の中にも、キリスト教や同志社の特徴・歴史について、もっと知る機会をもちたいとの要望を耳にすることもある。

しかし、法人、とりわけ、大学の意思決定プロセスで、キリスト教への関心を高める必要があるが、これはなかなかに困難である。

コングリゲーショナル・チャーチ・アライアンスについては、大学院への推薦入試や合同の広報の可能性など、実現可能性のある協力形態を模索、検討していきたい。キリスト教系の学校の多くは、誇るべき創立者や長い伝統を持ち、美しいキャンパスを有している。これは学校のブランド化に大いに有益だが、逆に、広報の創意工夫を妨げる可能性もあることには、十分な留意も必要であろう。

同志社の良心教育

村田晃嗣

同志社をはじめとする組合教会派の諸学校は、長い歴史をもつ。ただし、同志社のような大規模校の場合、キリスト教や組合教会の歴史に強い関心をもつ教職員は少数である。現在、法人全体で、キリスト教信者は7%程度であろう。しかも、少子化とグローバル化への様々な対応に追われている。そのため、まず学内でキリスト教や組合教会、同志社の歴史・伝統についての関心を高める努力が必要である。

例えば、同志社は「良心教育」を標榜しているが、その「良心」が何を

東北・北海道地区

広域の地区として初めての研修会

第1回新任教師研修会

5月30日（金）、仙台市にある東北学院中学校・高等学校を会場に第1回新任教師研修会が開催された。同盟各地区にはすでに歴史ある新任研修の報告が本紙でもなされているが、当地区は学校そのものの数が少ない上に、あまりにも広い地域から形成されていることなどにより、東山荘の夏期研究集会が実質の新任研修の場として考えられてきた。しかし、近年の事業再編によって上記のものがなくなり、当地区の新任研修が空欄になったのである。そこで考えられたのが中高教研委員主催による、いわゆる出前研修会の開催であった。勤続3年以内の新任教師対象として、広い地区を考慮し1回目は仙台を中心に、2回目は札幌を中心として実施する計画である。当初、数名のみの参加を予想していたが、8校（内、1校カトリック学校を含む）より22名の参加、実行委員5名、合計27名の参加であり、クリスマスの募金活動以外の事で各校が集まる、とりわけ研修会ということにおいては初めてのことで、特筆に価すると思う。

開会礼拝、当番校挨拶

て体育館、礼拝堂、職員室を見て午後のプログラムへと入った。

午後は玉川聖学院中高部長、水口洋先生の発題「キリスト教学校ではどんな教師が必要とされているか」から始まった。まず、国家と社会との関わりの私立学校、その中でのキリスト教学校の独自性、そして期待されることとして、協調性を持ちあわせつつ、様々な役割を担う中で時代、人間を見る目を大切にするという重要な提言がなされた。その後4分団に分かれての協議に移り、キリスト教教育を土台にしての、生徒との関わり、学習指導のあり方など多岐にわたる話題にて2時間を過ごした。各分団からの発表を受けて水口先生より講評がなされ教育活動が関係性の仕事であり、分にも、学校にも祝福として約束をされていると語られ、その多岐にわたる目に見える部分と、見えない部分との広さ、深さを知るのであった。

昼食は学校食堂で宮城学院院長、嶋田順好先生の祈禱によって和やかな時として始められ、食後は東京ドーム2個分の敷地がある校内見学として体育館、礼拝堂、職員室を見て午後のプログラムへと入った。

午後は玉川聖学院中高部長、水口洋先生の発題「キリスト教学校ではどんな教師が必要とされているか」から始まった。まず、国家と社会との関わりの私立学校、その中でのキリスト教学校の独自性、そして期待されることとして、協調性を持ちあわせつつ、様々な役割を担う中で時代、人間を見る目を大切にするという重要な提言がなされた。その後4分団に分かれての協議に移り、キリスト教教育を土台にしての、生徒との関わり、学習指導のあり方など多岐にわたる話題にて2時間を過ごした。各分団からの発表を受けて水口先生より講評がなされ教育活動が関係性の仕事であり、分にも、学校にも祝福として約束をされていると語られ、その多岐にわたる目に見える部分と、見えない部分との広さ、深さを知るのであった。

昼食は学校食堂で宮城学院院長、嶋田順好先生の祈禱によって和やかな時として始められ、食後は東京ドーム2個分の敷地がある校内見学として

による閉会祈祷によって会を閉じたのであった。

その後、本校参加教員からは「楽しかった」という感想が多々聞かれた。そこから派生した「楽しさ」は参加した他校の新任教員たちも共有し、横のつながりが一日で大きく発展した研修とも言える。分団の人数が5人程度の2時間という時間設定が、今の気持ちを言語化するに十分であったかもしれない。初めての経験で、簡単に比較検討することはできないが次年度に予定されている東北・北海道地区の札幌会場版新任研修をも期待して見守りたいと思う。

松井浩樹

〈東北学院中学校・高等学校宗教主任〉

公募

※採用予定日は特記以外15年4月1日です。

▽尚絅学院大学
総合人間科学部健康栄養学科
職種＝臨床栄養学実習他
教授、准教授又は講師
1名
応募締切＝7月31日
問合せ＝☎022-381-3301

▽国際基督教大学
▼教養学部
職種＝教育学関連准教授以上1名
採用予定日＝15年4月1日又は9月1日
応募締切＝8月31日
問合せ＝curriculum-sear-ch@icu.ac.jp

▽フェリス女学院大学
▼文学部
職種＝多文化共生、近世文化教授又は准教授各1名
応募締切＝多文化共生―7月11日、近世文化―25日
問合せ＝☎045-812-9211

▽関西学院大学
▼神学部
職種＝旧約聖書学教授、准教授、専任講師又は助教1名
応募締切＝7月22日
問合せ＝☎0798-54-6300

▽神戸女学院大学
▼文学部英文学科
職種＝イギリス演劇准教授又は専任講師1名
応募締切＝9月19日
問合せ＝☎0798-51-8548

▽広島女学院大学
▼国際教養学部国際教養学科
職種＝英語教育学関係准教授又は専任講師1名
応募締切＝9月1日
問合せ＝☎082-228-0386

▽松山東雲短期大学
▼保育科
職種＝教育原理他准教授又は講師1名
応募締切＝7月31日
問合せ＝☎089-931-6211

▽長崎外国語大学
▼外国語学部
職種＝国際ビジネス関係教授、准教授又は専任講師1名
応募締切＝7月22日
問合せ＝☎095-840-2000

▽沖縄キリスト教学院大学
▼人文学部英語コミュニケーション学科
職種＝国際協力関連科目他教授、准教授又は講師1名
採用予定日＝10月1日
応募締切＝7月22日
問合せ＝curriculum-sear-ch@icu.ac.jp

▽フェリス女学院大学
▼文学部
職種＝多文化共生、近世文化教授又は准教授各1名
応募締切＝多文化共生―7月11日、近世文化―25日
問合せ＝☎045-812-9211

▽関西学院大学
▼神学部
職種＝旧約聖書学教授、准教授、専任講師又は助教1名
応募締切＝7月22日
問合せ＝☎0798-54-6300

▽神戸女学院大学
▼文学部英文学科
職種＝イギリス演劇准教授又は専任講師1名
応募締切＝9月19日
問合せ＝☎0798-51-8548

▽広島女学院大学
▼国際教養学部国際教養学科
職種＝英語教育学関係准教授又は専任講師1名
応募締切＝9月1日
問合せ＝☎082-228-0386

▽松山東雲短期大学
▼保育科
職種＝教育原理他准教授又は講師1名
応募締切＝7月31日
問合せ＝☎089-931-6211

▽長崎外国語大学
▼外国語学部
職種＝国際ビジネス関係教授、准教授又は専任講師1名
応募締切＝7月22日
問合せ＝☎095-840-2000

▽沖縄キリスト教学院大学
▼人文学部英語コミュニケーション学科
職種＝国際協力関連科目他教授、准教授又は講師1名
採用予定日＝10月1日
応募締切＝7月22日
問合せ＝curriculum-sear-ch@icu.ac.jp

▽フェリス女学院大学
▼文学部
職種＝臨床栄養学実習他教授、准教授又は講師1名
応募締切＝7月31日
問合せ＝☎022-381-3301

▽国際基督教大学
▼教養学部
職種＝教育学関連准教授以上1名
採用予定日＝15年4月1日又は9月1日
応募締切＝8月31日
問合せ＝curriculum-sear-ch@icu.ac.jp

▽フェリス女学院大学
▼文学部
職種＝多文化共生、近世文化教授又は准教授各1名
応募締切＝多文化共生―7月11日、近世文化―25日
問合せ＝☎045-812-9211

▽関西学院大学
▼神学部
職種＝旧約聖書学教授、准教授、専任講師又は助教1名
応募締切＝7月22日
問合せ＝☎0798-54-6300

▽神戸女学院大学
▼文学部英文学科
職種＝イギリス演劇准教授又は専任講師1名
応募締切＝9月19日
問合せ＝☎0798-51-8548

▽広島女学院大学
▼国際教養学部国際教養学科
職種＝英語教育学関係准教授又は専任講師1名
応募締切＝9月1日
問合せ＝☎082-228-0386

▽松山東雲短期大学
▼保育科
職種＝教育原理他准教授又は講師1名
応募締切＝7月31日
問合せ＝☎089-931-6211

▽長崎外国語大学
▼外国語学部
職種＝国際ビジネス関係教授、准教授又は専任講師1名
応募締切＝7月22日
問合せ＝☎095-840-2000

▽沖縄キリスト教学院大学
▼人文学部英語コミュニケーション学科
職種＝国際協力関連科目他教授、准教授又は講師1名
採用予定日＝10月1日
応募締切＝7月22日
問合せ＝curriculum-sear-ch@icu.ac.jp

▽北星学園女子中学校・高等学校
職種＝理科期限付き嘱託教員1名
応募締切＝9月13日
問合せ＝☎011-561-7153

▽東北学院中学校・高等学校
職種＝地理専任教諭1名
応募締切＝7月12日
問合せ＝☎022-786-1231

▽青山学院高等部
職種＝数学科非常勤講師1～2名
応募締切＝10月3日
問合せ＝☎03-3409-3880

▽国際基督教大学高等学校
職種＝数学科専任教員1名
応募締切＝9月1日
問合せ＝☎0422-33-3417

▽女子聖学院中学校・高等学校
職種＝理科（生物）特任教諭1名
応募締切＝8月25日
問合せ＝☎03-3917-2277

▽フェリス女学院中学校・高等学校
職種＝数学科専任教諭又は常勤講師若干名
応募締切＝9月5日
問合せ＝☎045-641-0242

▽関東学院中学校・高等学校
職種＝専任教諭理科（化学）、英語科各1名、保健体育科2名
応募締切＝8月18日
問合せ＝☎045-231-1001

▽横須賀学院中学校・高等学校
職種＝国語科、数学科、司書教諭
専任教諭各1名
応募締切＝7月10日
問合せ＝☎0774-65-8911

▽大阪女学院
職種＝専任事務職員1名
応募締切＝7月31日
問合せ＝☎06-6761-4013

▽北陸学院中学校・高等学校
職種＝理科、芸術科（音楽）、英語科、聖書科
専任教員各1名
応募締切＝8月29日
問合せ＝☎0776-280-3868

▽同志社国際中学校・高等学校
職種＝専任教員国語科1名、英語科3名
応募締切＝国―8月20日、英―9月26日
問合せ＝☎0774-65-8911

▽啓明学院中学校・高等学校
職種＝数学科教諭1名
応募締切＝7月23日
問合せ＝☎078-741-1501

▽西南学院中学校・高等学校
職種＝数学科、社会科、理科専任教諭各1名
応募締切＝9月8日
問合せ＝☎092-841-1317

▽横須賀学院小学校
職種＝全科（英語指導含む）専任教師1名
応募締切＝7月23日
問合せ＝☎046-825-1920

▽同志社小学校
職種＝教諭若干名
応募締切＝8月4日
問合せ＝☎0775-706-7786

▽尚絅学院
職種＝専任事務職員若干名
応募締切＝7月10日
問合せ＝☎022-381-3333

▽同志社国際中学校・高等学校
職種＝専任事務職員1名
応募締切＝9月10日
問合せ＝☎0774-65-8911

▽大阪女学院
職種＝専任事務職員1名
応募締切＝7月31日
問合せ＝☎06-6761-4013

問合せ＝liitoo628@cgc.ac.jp

▽北星学園女子中学校・高等学校
職種＝理科期限付き嘱託教員1名
応募締切＝9月13日
問合せ＝☎011-561-7153

▽東北学院中学校・高等学校
職種＝地理専任教諭1名
応募締切＝7月12日
問合せ＝☎022-786-1231

▽青山学院高等部
職種＝数学科非常勤講師1～2名
応募締切＝10月3日
問合せ＝☎03-3409-3880

▽国際基督教大学高等学校
職種＝数学科専任教員1名
応募締切＝9月1日
問合せ＝☎0422-33-3417

▽女子聖学院中学校・高等学校
職種＝理科（生物）特任教諭1名
応募締切＝8月25日
問合せ＝☎03-3917-2277

▽フェリス女学院中学校・高等学校
職種＝数学科専任教諭又は常勤講師若干名
応募締切＝9月5日
問合せ＝☎045-641-0242

▽関東学院中学校・高等学校
職種＝専任教諭理科（化学）、英語科各1名、保健体育科2名
応募締切＝8月18日
問合せ＝☎045-231-1001

▽横須賀学院中学校・高等学校
職種＝国語科、数学科、司書教諭
専任教諭各1名
応募締切＝7月10日
問合せ＝☎0774-65-8911

▽大阪女学院
職種＝専任事務職員1名
応募締切＝7月31日
問合せ＝☎06-6761-4013

▽北陸学院中学校・高等学校
職種＝理科、芸術科（音楽）、英語科、聖書科
専任教員各1名
応募締切＝8月29日
問合せ＝☎0776-280-3868

▽同志社国際中学校・高等学校
職種＝専任教員国語科1名、英語科3名
応募締切＝国―8月20日、英―9月26日
問合せ＝☎0774-65-8911

▽啓明学院中学校・高等学校
職種＝数学科教諭1名
応募締切＝7月23日
問合せ＝☎078-741-1501

▽西南学院中学校・高等学校
職種＝数学科、社会科、理科専任教諭各1名
応募締切＝9月8日
問合せ＝☎092-841-1317

▽横須賀学院小学校
職種＝全科（英語指導含む）専任教師1名
応募締切＝7月23日
問合せ＝☎046-825-1920

▽同志社小学校
職種＝教諭若干名
応募締切＝8月4日
問合せ＝☎0775-706-7786

▽尚絅学院
職種＝専任事務職員若干名
応募締切＝7月10日
問合せ＝☎022-381-3333

▽同志社国際中学校・高等学校
職種＝専任事務職員1名
応募締切＝9月10日
問合せ＝☎0774-65-8911

▽大阪女学院
職種＝専任事務職員1名
応募締切＝7月31日
問合せ＝☎06-6761-4013

▽北陸学院中学校・高等学校
職種＝理科、芸術科（音楽）、英語科、聖書科
専任教員各1名
応募締切＝8月29日
問合せ＝☎0776-280-3868

▽同志社国際中学校・高等学校
職種＝専任教員国語科1名、英語科3名
応募締切＝国―8月20日、英―9月26日
問合せ＝☎0774-65-8911

▽啓明学院中学校・高等学校
職種＝数学科教諭1名
応募締切＝7月23日
問合せ＝☎078-741-1501

▽西南学院中学校・高等学校
職種＝数学科、社会科、理科専任教諭各1名
応募締切＝9月8日
問合せ＝☎092-841-1317

▽横須賀学院小学校
職種＝全科（英語指導含む）専任教師1名
応募締切＝7月23日
問合せ＝☎046-825-1920

▽同志社小学校
職種＝教諭若干名
応募締切＝8月4日
問合せ＝☎0775-706-7786

▽尚絅学院
職種＝専任事務職員若干名
応募締切＝7月10日
問合せ＝☎022-381-3333

▽同志社国際中学校・高等学校
職種＝専任事務職員1名
応募締切＝9月10日
問合せ＝☎0774-65-8911

▽大阪女学院
職種＝専任事務職員1名
応募締切＝7月31日
問合せ＝☎06-6761-4013

事務局だより

二十四節気では、7日が小暑、いよいよ暑さも本格的になり「温風至」の候です。蒸し暑さに慣れるまでは深い疲れを覚え、また学期末の忙しさがさらにその疲れに追い打ちをかけます。

木々に目を向けると、青葉はますます勢いを増し、目に染む夏の日々です。

4月より学校という新しい世界で勤めを始めた方々には、少し慣れてきて職場の中に自身をどのように位置づけていくのかを考え出す日々でもあります。

教育同盟は、過日の総会において、任意団体から責任を有する一般社団法人になることを確認いたしました。教育同盟は、これまでの交誼と情報交換の場から、祈りによって支えられた研修と研究の事業体としての再出発をめざしています。加盟校の一校一校を支えることが教育同盟の使命とする組織の改革です。

課題はなお多く、学校の管理者・中堅リーダーの育成、教職員のスキルアップと心のケア、道徳の時間の教科化、何にもましてキリスト教学校がらキリスト教育が薄れていく中で学校の存在の意味が真正面から問われています。

為方（せんかた）尽くれども、希望（のぞみ）を失わず。

「共に祈り　共に生きよう」希望を抱いて。

（主事）

（お知らせ）

事務局は8月13日（水）～15日（金）、業務を休ませていただきます。